

## 柏の景気情報（平成21年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
T E L : 04-7162-3305  
F A X : 04-7162-3323  
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成21年1月分）

○ 調査期間 : 平成21年1月19日 ~ 1月23日

○ 調査対象 : 柏市内109事業所及び組合にヒアリング

### <産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	109	78	71.6%
建設	19	15	78.9%
製造	24	18	75.0%
卸・小売	43	30	69.8%
サービス	23	15	65.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年1月の調査結果のポイント】

《業況DIは依然として60ポイント台 消費者の購買意欲は低迷》

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲65.3(前月水準▲63.6)となり、マイナス幅が▲1.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲56.6(同▲62.5)、サービス業▲66.6(同▲70.5)、製造業▲66.6(同▲68.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲80.0(同▲50.0)であり、マイナス幅が▲30.0ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】では「企業の設備投資減少により、工事が少なくなっている」(一般土木建築工事業)「円高は歓迎する」(土木工事業)「昨年12月の売上は確保できたが、仕入単価の上昇、外注費及び休祭日出勤手当、残業代など経費が売上以上に上がり、採算が合わない状態になっている。人材に効率よく仕事をしてもらうことがこれからの課題」(管工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「販売額の低下により収益が低下」(有機化学工業製品製造業)「海外向け製品の出荷延期(中止)が増加している」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)「大手ユーザーからの受注減により減少」(その他の鉄鋼業)「従来、毎月受注していたリピート品の注文が少ない。メーカーが生産を調整している。受注量が多い時期に生産体制を合わせているため、固定費がそのまま注文がないという状況。正社員で構成しているため、調整ができない。試作品の受注が多く業務的には繁忙期のように」(その他の金属製品製造業)等のコメントが寄せられている。

【卸小売業】では、「全体的に不変ですが悪い位置でのこと。商品の値上げは止まった」(食料・飲料卸売業)「現在の青果卸の状況は、野菜は産地の厳しい寒さから、キャベツが品薄のため高値が続く、果実では、みかんが入荷減(稟年)のため、単価高のもの等、各々にばらつきがあり動いている」(食料・飲料卸売業)「逆に円高による輸入原材料の値下げに期待するがなかなか下がらず」(菓子・パン小売業)「原油価格の下落に伴い、ガソリン価格は以前の値段に戻っているのに、塗料・シンナー等の仕入れ価格は高いピークの水準のまま据え置かれていて苦しい」(塗料卸売業)といったコメントが寄せられた。

【サービス業】では「経営コストの中で軽油価格の低下が経常利益に大きく寄与した。再度値上げの観測があるがこのままの価格維持がなんとしても必要」(一般貨物自動車運送業)「世界不況の中、日本独自の景気回復が望めない中、アメリカ大統領の正式就任により、景気の早期回復に望みをつなぎたい」(食堂・レストラン)「宿泊は稼働率減、単価増。宴会は件数減、件単価減。非常に厳しい現状が続いています」(ホテル)などのコメントが寄せられた。

◎購買意欲低下

各業種から「公共工事が少なく、みんなの購買意欲も薄れているように思います」(一般土木建築工事業)「前月と同様あるいはさらに悪化した基調です。初商クリアランスは昨年を2桁割り込んでいます。媒体やパブリシティ初動も続きません。金融証券市場の低迷、企業業績の悪化が個人消費に大きな影響を与えており、きわめて慎重な購買態度です」(百貨店)「不況の波から顧客の購買意欲が減っており、買い控えが感じられる。原油価格同様LPG輸入価格も下落したことから、経営的には多少落ち着いた感がある」(燃料小売業)「1月は毎年盛況である初売りは周辺競合の激化に加え、景況感の悪化に伴い、個人消費が冷え込んだ影響から、売上・入店客数ともに厳しい結果となった」(各種商品小売業)などの声が多くあがってきている。

◎景気低迷

各業種から「国民全体に景気低迷がインプットされてしまった。お客はお金を使わないよりも、使えない状態に陥っているため、仕事量が減って回復できない」(電気工事業)「当社としても世間の景気悪化の影響が出ている。関係業者からも景気悪化の底が見えない状況で進んでいるとの声がある」(その他の機械・同部分品製造業)といった声が多く寄せられた。

◎先行き不安

各業種から「来店客数が若干減ってはいるが、それ以上に売り上げがよくない。先行き不安からか買い控えムードが強く、冬物バーゲンも前年数字をとれていない。1月も後半に入り、景況はさらに悪くなっている」(その他の各種商品小売業)「経済不振に伴う先行き不安増大が大きな問題」(書籍・文房具小売業)など、に対するコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲55.0	▲68.7	▲38.8	▲55.1	▲58.8
9月	▲55.1	▲75.0	▲52.9	▲48.2	▲50.0
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
H21年1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
見通し	▲58.9	▲60.0	▲83.3	▲40.0	▲66.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲65.3(前月水準▲63.6)となり、マイナス幅が▲1.7ポイント拡大した。

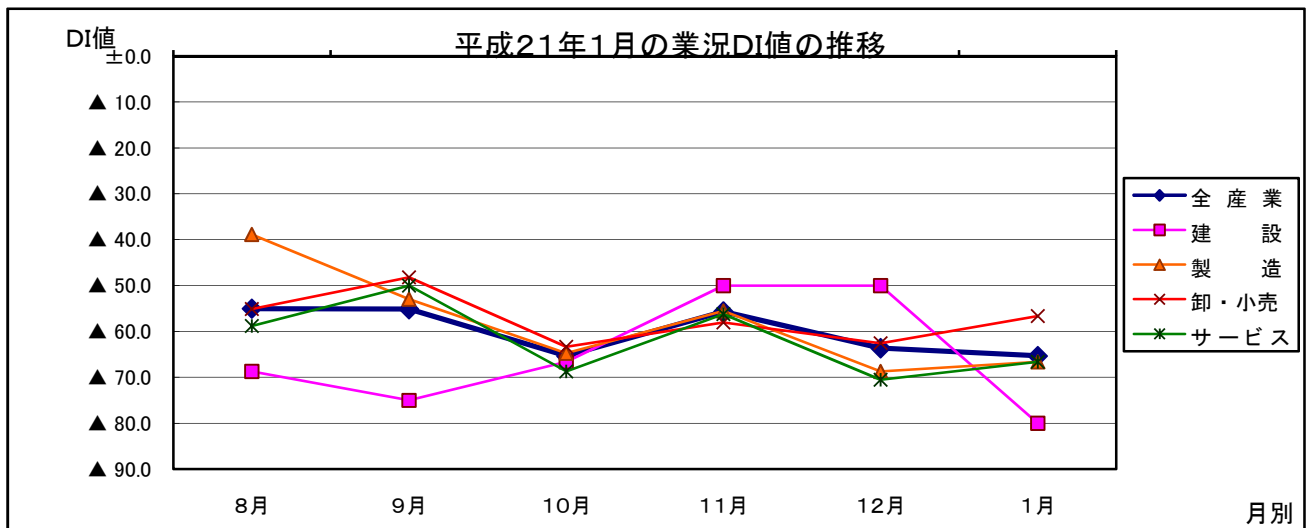
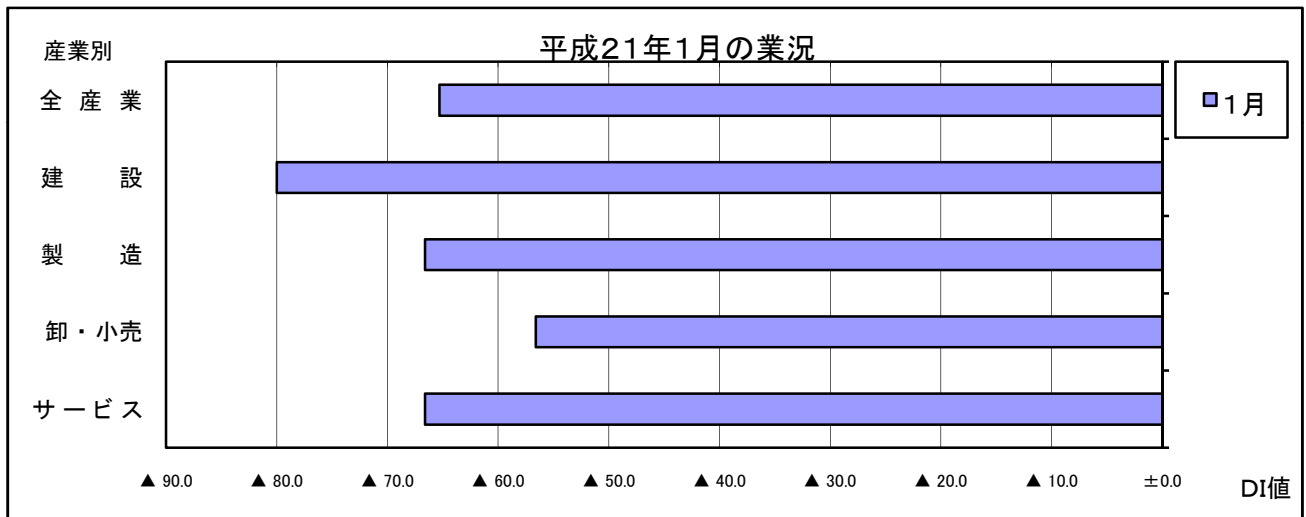
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲56.6(同▲62.5)、サービス業▲66.6(同▲70.5)、製造業▲66.6(同▲68.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲80.0(同▲50.0)であり、マイナス幅が▲30.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲58.9(前月水準▲55.8)となり、マイナス幅が▲3.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲40.0(同▲46.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲83.3(同▲68.7)、サービス業▲66.6(同▲58.8)、建設業▲60.0(同▲58.3)である。

平成21年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年	9月	10月	11月	12月	平成21年	先行き見通し	
	8月					1月	2月~4月	1月~3月
全産業	▲55.0	▲55.1	▲65.3	▲55.6	▲63.6	▲65.3	▲58.9 ( ▲55.8 )	
建設	▲68.7	▲75.0	▲66.6	▲50.0	▲50.0	▲80.0	▲60.0 ( ▲58.3 )	
製造	▲38.8	▲52.9	▲64.7	▲55.5	▲68.7	▲66.6	▲83.3 ( ▲68.7 )	
卸・小売	▲55.1	▲48.2	▲63.3	▲58.0	▲62.5	▲56.6	▲40.0 ( ▲46.8 )	
サービス	▲58.8	▲50.0	▲68.7	▲56.2	▲70.5	▲66.6	▲66.6 ( ▲58.8 )	



【平成10年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲56.4(前月水準▲41.5)となり、マイナス幅が▲14.9ポイント拡大した。

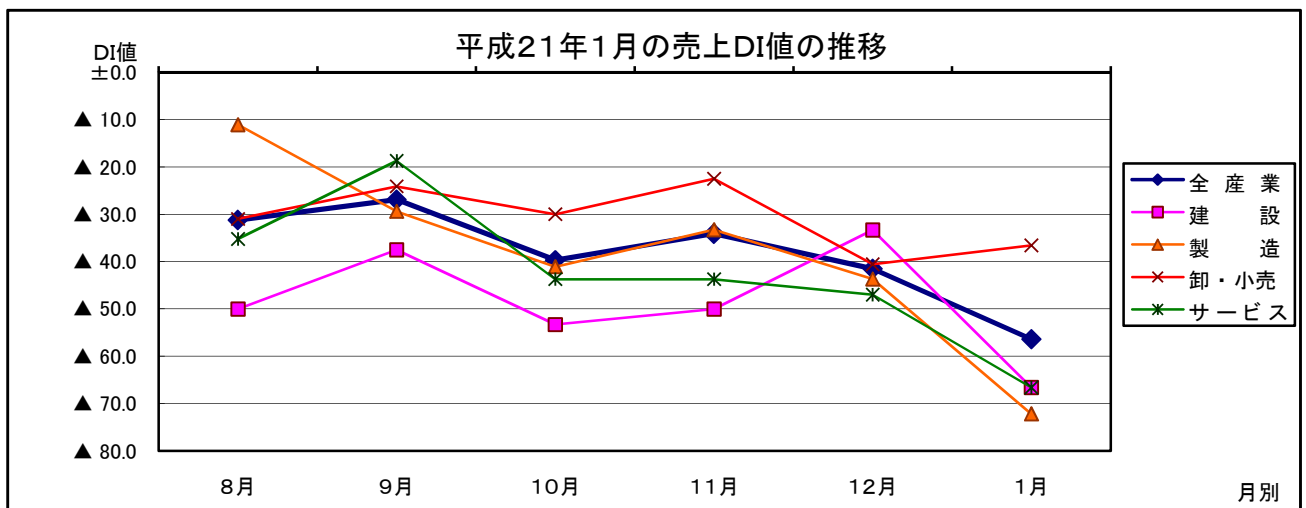
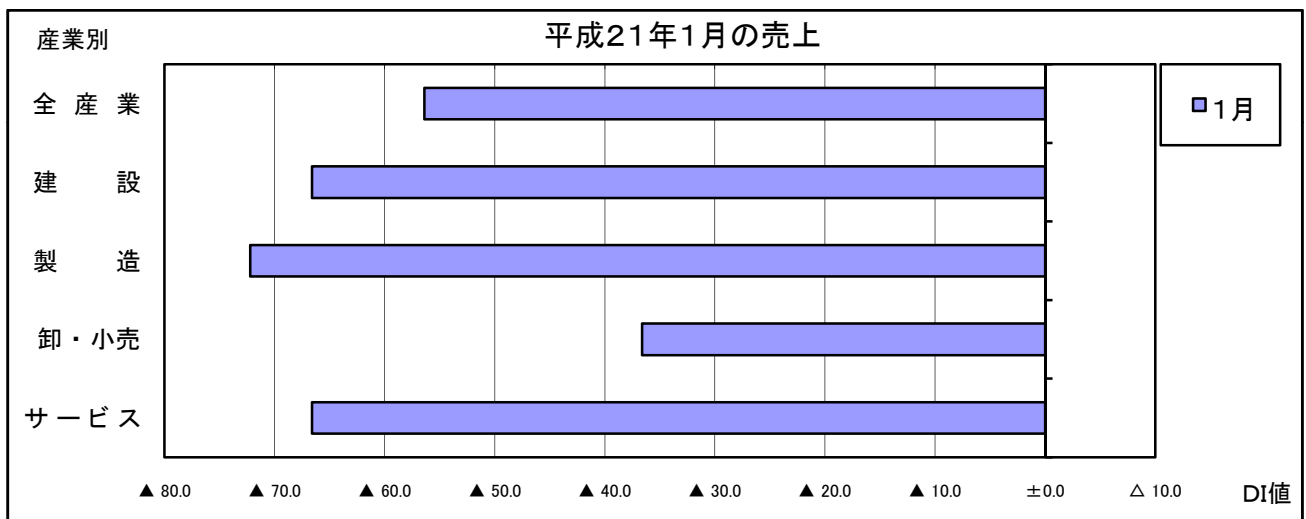
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲36.6(同▲40.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲66.6(同▲33.3)、製造業▲72.2(同▲43.7)、サービス業▲66.6(同▲47.0)であり、特に、建設業、製造業はマイナス幅が20ポイント以上大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲47.4(前月水準▲45.4)となり、マイナス幅が▲2.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.0(同▲43.7)、建設業▲46.6(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲29.4)、製造業▲66.6(同▲62.5)である。

平成21年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 8月	9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲31.2	▲26.9	▲39.7	▲34.1	▲41.5	▲56.4	▲47.4(▲45.4)
建設	▲50.0	▲37.5	▲53.3	▲50.0	▲33.3	▲66.6	▲46.6(▲50.0)
製造	▲11.1	▲29.4	▲41.1	▲33.3	▲43.7	▲72.2	▲66.6(▲62.5)
卸・小売	▲31.0	▲24.1	▲30.0	▲22.5	▲40.6	▲36.6	▲40.0(▲43.7)
サービス	▲35.2	▲18.7	▲43.7	▲43.7	▲47.0	▲66.6	▲40.0(▲29.4)



【平成21年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲56.4(前月水準▲59.7)となり、マイナス幅が△3.3ポイント縮小した。

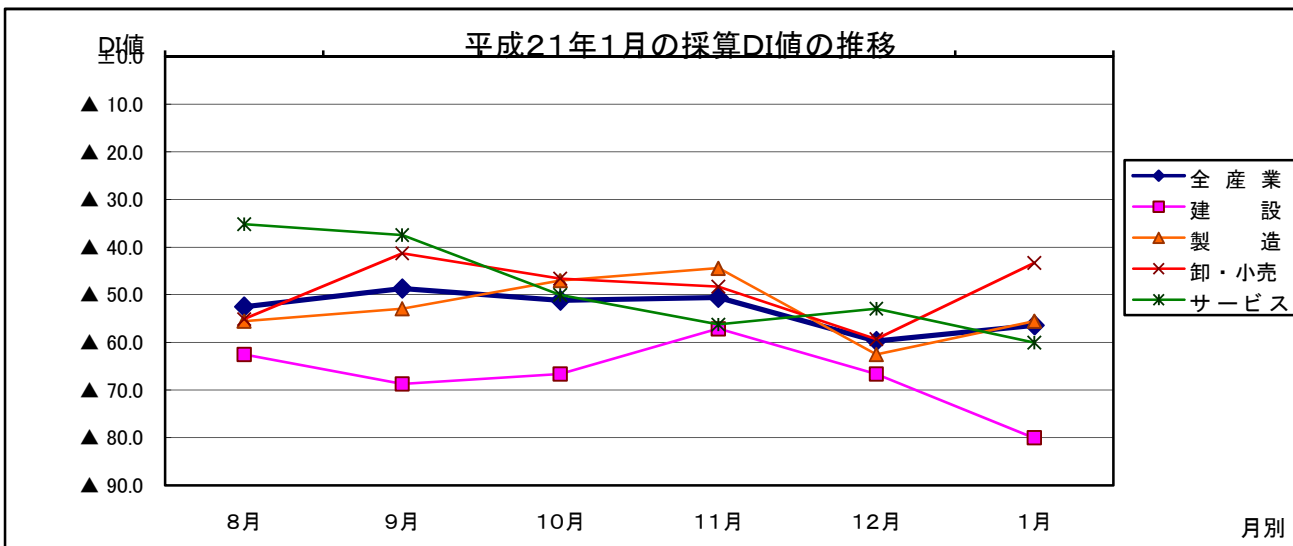
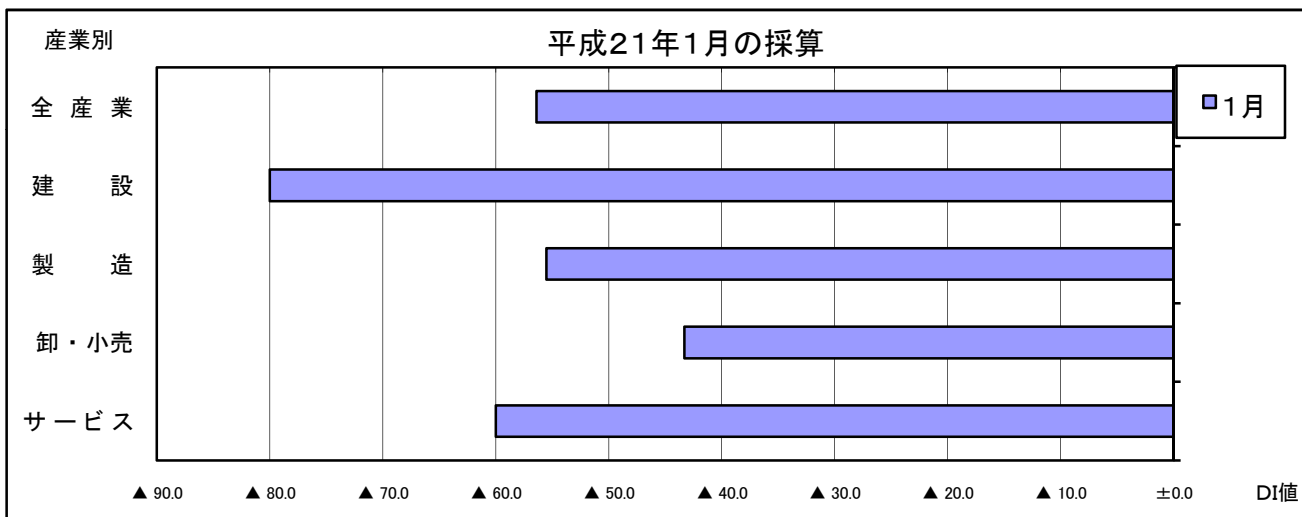
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲43.3(同▲59.3)、製造業▲55.5(同▲62.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲80.0(同▲66.6)、サービス業▲60.0(同▲52.9)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲52.5(前月水準▲49.3)となり、マイナス幅が▲3.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲36.6(同▲46.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.6(同▲29.4)、製造業▲77.7(同▲68.7)、建設業▲60.0(同▲58.3)である。

平成21年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 8月	9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲52.5	▲48.7	▲51.2	▲50.6	▲59.7	▲56.4	▲52.5(▲49.3)
建設	▲62.5	▲68.7	▲66.6	▲57.1	▲66.6	▲80.0	▲60.0(▲58.3)
製造	▲55.5	▲52.9	▲47.0	▲44.4	▲62.5	▲55.5	▲77.7(▲68.7)
卸・小売	▲55.1	▲41.3	▲46.6	▲48.3	▲59.3	▲43.3	▲36.6(▲46.8)
サービス	▲35.2	▲37.5	▲50.0	▲56.2	▲52.9	▲60.0	▲46.6(▲29.4)



【平成21年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.0(前月水準▲31.1)となり、マイナス幅が△8.1ポイント縮小した。

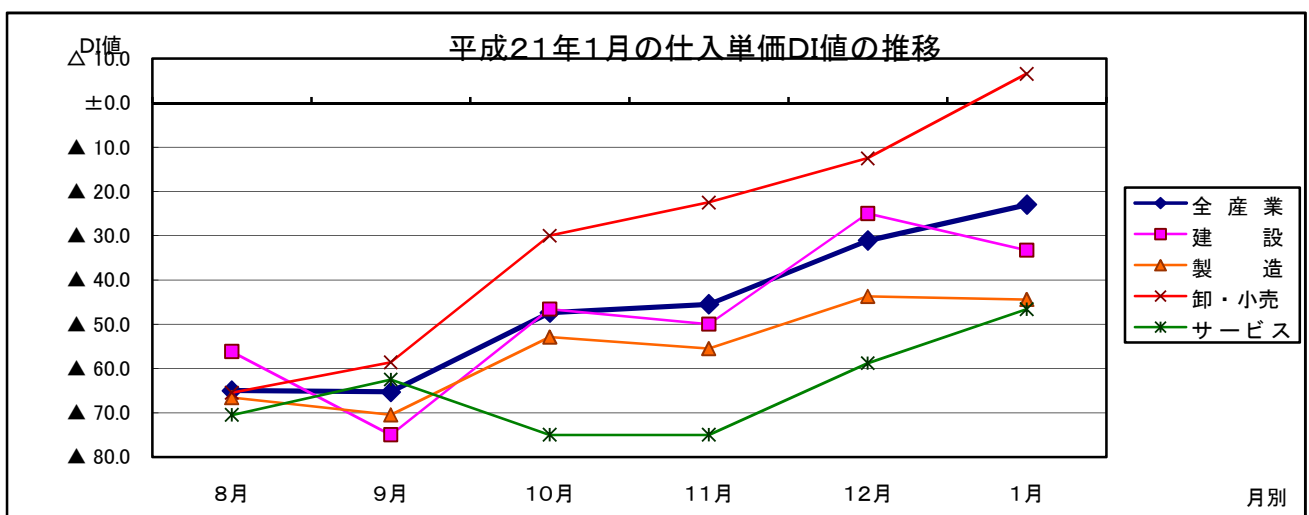
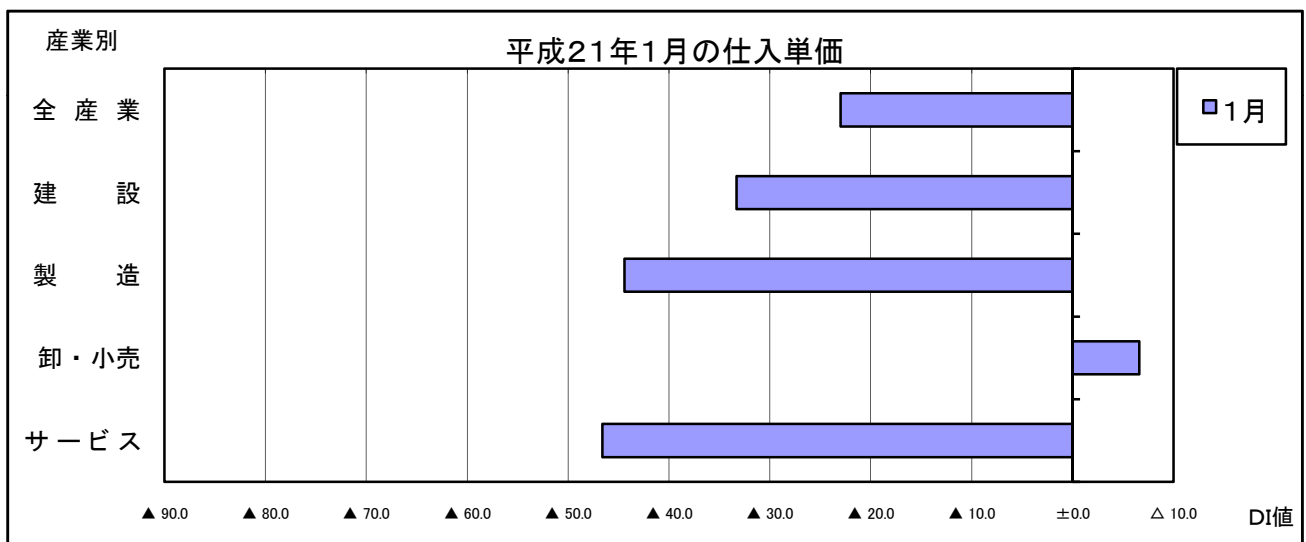
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、卸小売業△6.6(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲46.6(同▲58.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲33.3(同▲25.0)、製造業▲44.4(同▲43.7)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.8(前月水準▲16.8)となり、マイナス幅が△13.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△5.5(同▲25.0)、卸小売業△16.6(同▲6.2)であり、いずれも20ポイント以上、大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲13.3(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲46.6(同▲29.4)である。

平成21年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 8月	9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲ 65.0	▲ 65.3	▲ 47.4	▲ 45.5	▲ 31.1	▲ 23.0	▲ 3.8 ( ▲ 16.8 )
建設	▲ 56.2	▲ 75.0	▲ 46.6	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 13.3 ( ▲ 16.6 )
製造	▲ 66.6	▲ 70.5	▲ 52.9	▲ 55.5	▲ 43.7	▲ 44.4	△ 5.5 ( ▲ 25.0 )
卸・小売	▲ 65.5	▲ 58.6	▲ 30.0	▲ 22.5	▲ 12.5	△ 6.6	△ 16.6 ( ▲ 6.2 )
サービス	▲ 70.5	▲ 62.5	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 58.8	▲ 46.6	▲ 46.6 ( ▲ 29.4 )



【平成21年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.1(前月水準▲2.5)となり、マイナス幅が▲11.6ポイント拡大した。

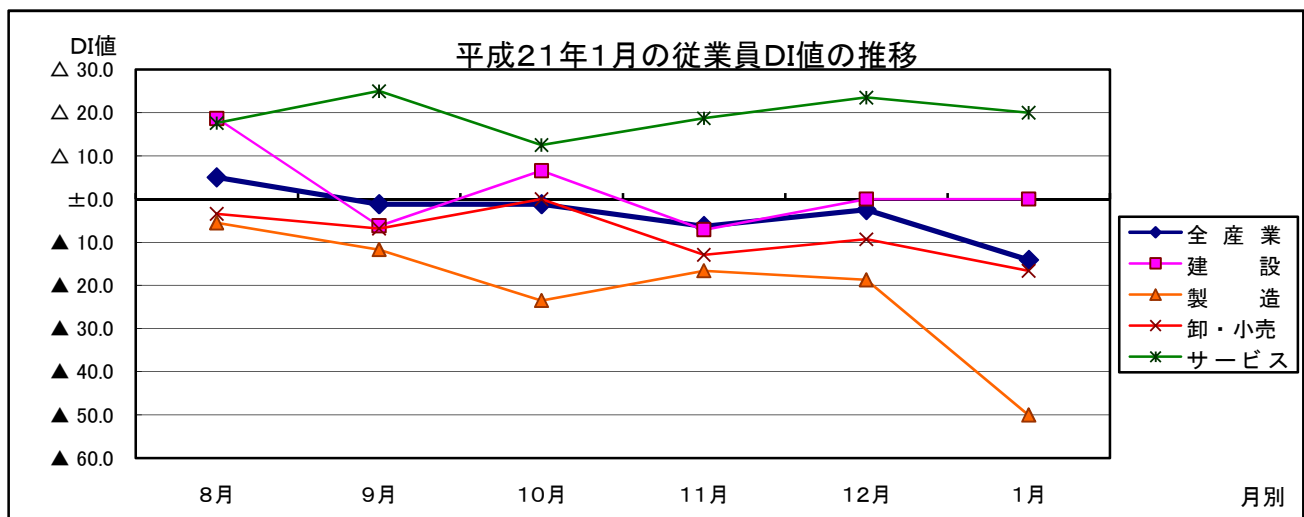
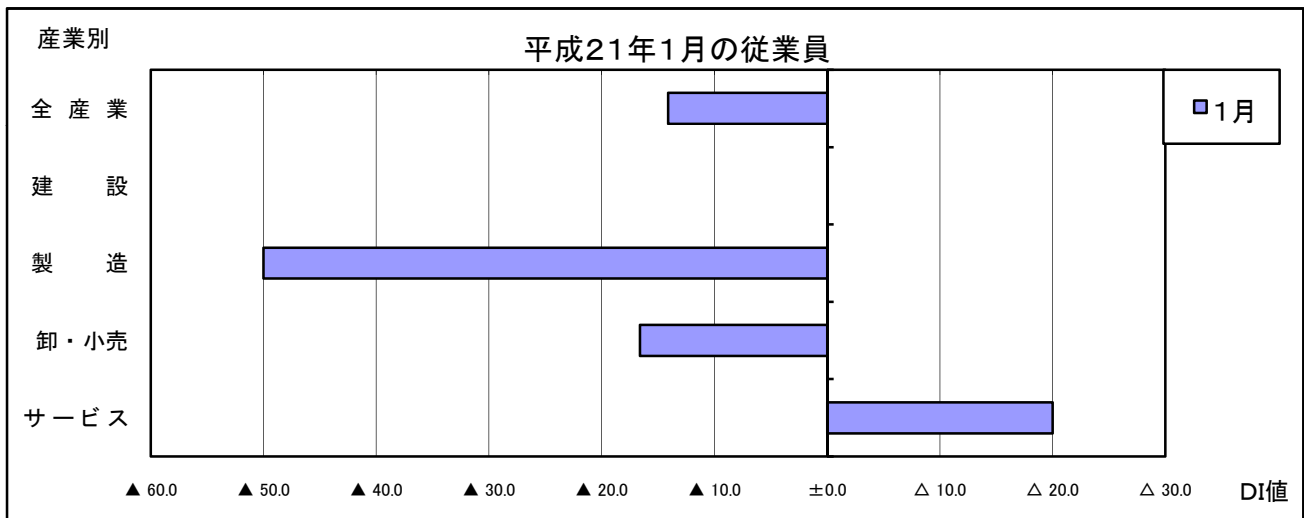
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△20.0(同△23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲50.0(同▲18.7)、卸小売業▲16.6(同▲9.3)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲31.3ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.5(前月水準▲2.5)となり、マイナス幅が▲9.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△20.0(同△29.4)、建設業△6.6(同△8.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲13.3(同▲3.1)、製造業▲50.0(同▲43.7)である。

平成21年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 8月	9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	△ 5.0	▲ 1.2	▲ 1.2	▲ 6.3	▲ 2.5	▲ 14.1	▲ 11.5 ( ▲ 2.5 )
建設	△ 18.7	▲ 6.2	△ 6.6	▲ 7.1	±0.0	±0.0	△ 6.6 ( △ 8.3 )
製造	▲ 5.5	▲ 11.7	▲ 23.5	▲ 16.6	▲ 18.7	▲ 50.0	▲ 50.0 ( ▲ 43.7 )
卸・小売	▲ 3.4	▲ 6.8	±0.0	▲ 12.9	▲ 9.3	▲ 16.6	▲ 13.3 ( ▲ 3.1 )
サービス	△ 17.6	△ 25.0	△ 12.5	△ 18.7	△ 23.5	△ 20.0	△ 20.0 ( △ 29.4 )





【平成21年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.0(前月水準▲45.4)となり、マイナス幅が△13.4ポイント縮小した。

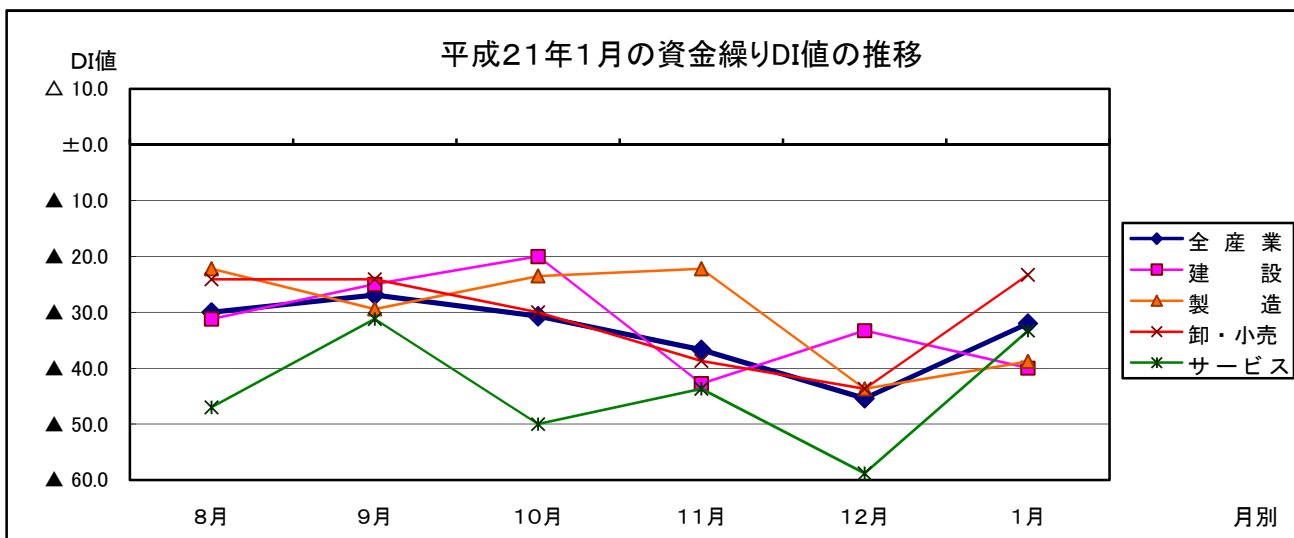
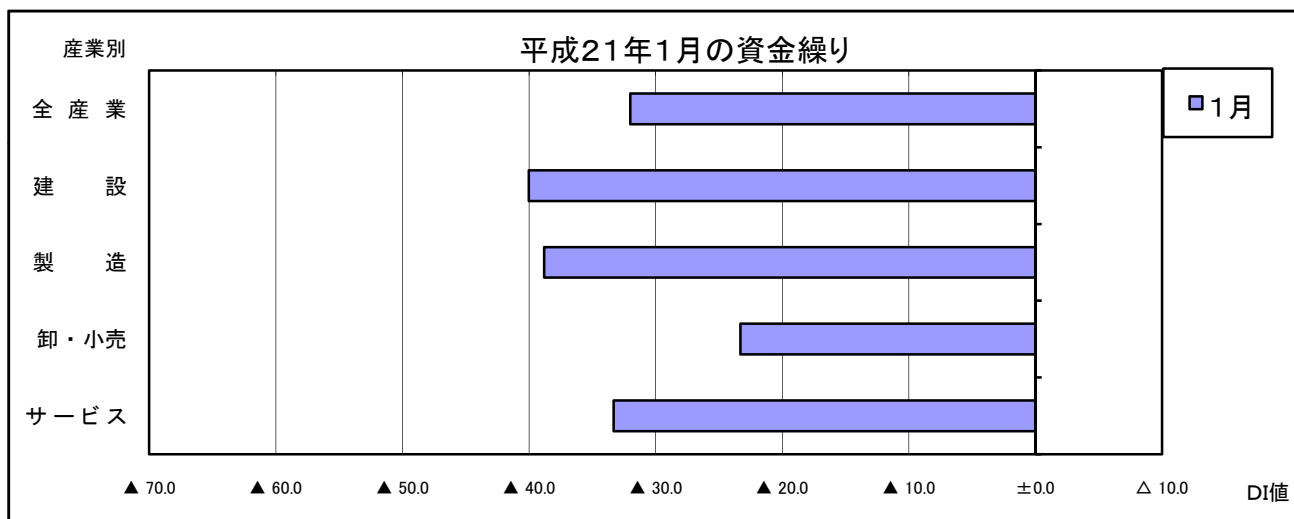
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲58.8)、卸小売業▲23.3(同▲43.7)、製造業▲38.8(同▲43.7)であり、特に、サービス業、卸小売業は、マイナス幅が20ポイント以上大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲40.0(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.3(前月水準▲41.5)となり、マイナス幅が△8.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲16.6(同▲34.3)、サービス業▲40.0(同▲52.9)である。変らない見通しの業種は、製造業▲50.0(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲40.0(同▲33.3)である。

平成21年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年 8月	9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲30.0	▲26.9	▲30.7	▲36.7	▲45.4	▲32.0	▲33.3(▲41.5)
建設	▲31.2	▲25.0	▲20.0	▲42.8	▲33.3	▲40.0	▲40.0(▲33.3)
製造	▲22.2	▲29.4	▲23.5	▲22.2	▲43.7	▲38.8	▲50.0(▲50.0)
卸・小売	▲24.1	▲24.1	▲30.0	▲38.7	▲43.7	▲23.3	▲16.6(▲34.3)
サービス	▲47.0	▲31.2	▲50.0	▲43.7	▲58.8	▲33.3	▲40.0(▲52.9)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 56.4	▲ 47.4	▲ 56.4	▲ 52.5	▲ 23.0	▲ 3.8	▲ 14.1	▲ 11.5
建設	▲ 66.6	▲ 46.6	▲ 80.0	▲ 60.0	▲ 33.3	▲ 13.3	±0.0	△ 6.6
製造	▲ 72.2	▲ 66.6	▲ 55.5	▲ 77.7	▲ 44.4	△ 5.5	▲ 50.0	▲ 50.0
卸・小売	▲ 36.6	▲ 40.0	▲ 43.3	▲ 36.6	△ 6.6	△ 16.6	▲ 16.6	▲ 13.3
サービス	▲ 66.6	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 46.6	▲ 46.6	▲ 46.6	△ 20.0	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 65.3	▲ 58.9	▲ 32.0	▲ 33.3
建設	▲ 80.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 40.0
製造	▲ 66.6	▲ 83.3	▲ 38.8	▲ 50.0
卸・小売	▲ 56.6	▲ 40.0	▲ 23.3	▲ 16.6
サービス	▲ 66.6	▲ 66.6	▲ 33.3	▲ 40.0

【平成21年1月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	事業所名	業種
建設	企業の設備投資減少により、工事が少なくなっている。	・設備投資減少	永岡建設工業(株)	一般土木建築工事業
	公共工事が少なく、みんなの購買意欲も薄れているように思います。	・公共工事減少 ・購買意欲低下	(株)成島組	一般土木建築工事業
	円高は歓迎する	・円高	日進建設(株)	土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	昨年12月の売上は確保できたが、仕入単価の上昇、外注費及び休祭日出動手当、残業代など経費が売上以上に上がり、採算が合わない状態になっている。人材に効率よく仕事をしてもらうことがこれからの課題。	・売上確保 ・仕入単価上昇 ・経費増加 ・不採算	(株)公友住機	管工事業(さく井を除く)
	国民全体に景気低迷がインプットされてしまった。お客はお金を使わないよりも、使えない状態に陥っているため、仕事量が減って回復できない。	・景気低迷 ・仕事量減少 ・購買意欲低下	(株)高野設備工業	電気工事業
製造	販売額の低下により収益が低下	・収益低下 ・販売価格低下	(株)トクシキ	有機化学工業製品製造業
	海外向け製品の出荷延期(中止)が増加している。	・輸出中止増加	昭和ゴム(株)	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	大手ユーザーからの受注減により減少	・受注減少	パウダーテック(株)	その他の鉄鋼業
	従来、毎月受注していたリピート品の注文が少ない。メーカーが生産を調整している。受注量が多い時期に生産体制を合わせているため、固定費がそのまま注文がないという状況。正社員で構成しているため、調整ができない。試作品の受注が多く業務的には繁忙期のよう。	・受注減少 ・生産調整 ・固定費増加 ・人材調整 ・試作品受注増加	中央ばね工業(株)	その他の金属製品製造業
	不動産の減退の影響で建築が減少。	・工事減少	柏エレベータ工業(株)	一般産業用機械設備製造業
	当社としても世間の景気悪化の影響が出ている。関係業者からも景気悪化の底が見えない状況で進んでいるとの声がある。	・景気低迷 ・先行き不安	(株)東京自働機械製作所柏工場	その他の機械・同部分品製造業
	現況では良い話が全くないが、新規事業では展開できそうな面白い話あり	・好材料なし ・新規事業	(株)丸昭建材	生コンクリート製造業
卸小売	全体的に不変ですが悪い位置でのこと。商品の値上げは止まった。	・悪化状態 ・値上げ止まり	(株)小林海苔店	食料・飲料卸売業
	前月と同様あるいはさらに悪化した基調です。初商クリアランスは昨年より2桁割り込んでいます。媒体やパブリシティ初動も続きません。金融証券市場の低迷、企業業績の悪化が個人消費に大きな影響を与えており、きわめて慎重な購買態度です。	・業況悪化 ・金融不安 ・購買意欲低下	(株)高島屋柏店	百貨店
	現在の青果卸の状況は、野菜は産地の厳しい寒さから、キャベツが品薄のため高値が続く、果実では、みかんが入荷減(裏年)のため、単価高のもの等、各々にばらつきがあり動いている。卸として食の安心安全を求め、消費者へ応えるため、産地と連携して入荷。また、流通の変化や当市場の特性を生かすため、近在の集荷体制の見直しを図っている。日本の景気は国内で拡大させることが最善と思われるが、今般のアメリカ新政権発足の効果が世界へ広がることを期待したい。	・食の安全 ・産地との連携 ・集荷体制の見直し ・米国新政権の期待	マルカ千葉県柏中央青果(株)	食料・飲料卸売業
	逆に円高による輸入原材料の値下げに期待するがなかなか下がらず。	・輸入材料下がらず	(有)フルタ西洋菓子処樹杏	菓子・パン小売業
	不況の波から顧客の購買意欲が減っており、買い控えが感じられる。原油価格同様LPG輸入価格も下落したことから、経営的には多少落ち着いた感がある。	・購買意欲の低下 ・原油価格の下落	(株)山川燃料店	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	経済不振に伴う先行き不安増大が大きな問題	・景気低迷 ・先行き不安	(有)浅野書店	書籍・文房具小売業
	来店客数が若干減ってはいるが、それ以上に売り上げがよくない。先行き不安から買い控えムードが強く、冬物バーゲンも前年数字をとれていない。1月も後半に入り、景況はさらに悪くなっている。	・売上不振 ・先行き不安 ・購買意欲低下 ・業況悪化	ファミリかしわ柏駅前第一商業協同組合	その他の各種商品小売業(従業員が常時50人未満のもの)

【平成21年1月の業種別業界内トピックス】

卸小売	1月は毎年盛況である初売りは周辺競合の激化に加え、景況感の悪化に伴い、個人消費が冷え込んだ影響から、売上・入店客数ともに厳しい結果となった。その後はセール前の買い控えはあまり見られず、前年を上回る推移となった。内容的には衣料品でアウターの動きが鈍く、単品買いが目立ったことから苦戦する店舗が多かった。セール終了後は店頭はブローパー商材に切り替え、春ものの早期完売に結び付けていきたい。	・初売り ・購買意欲低下 ・春ものの商戦	東神開発(株)柏事業本部	各種商品小売業
	原油価格の下落に伴い、ガソリン価格は以前の値段に戻っているのに、塗料・シンナー等の仕入れ価格は高いピークの水準のまま据え置かれていて苦しい。	・原油価格下落 ・仕入価格高値維持	(株)富士商会	塗料卸売業
サービス	経営コストの中で軽油価格の低下が経常利益に大きく寄与した。再度値上げの観測があるがこのままの価格維持がなんとしても必要。	・原油価格下落	常南通運(株)	一般貨物自動車運送業
	世界不況の中、日本独自の景気回復が望めない中、アメリカ大統領の正式就任により、景気の早期回復に望みをつなぎたい。	・米国新政権の期待	(有)真砂	食堂・レストラン
	宿泊は稼働率減、単価増。宴会は件数減、件単価減。非常に厳しい現状が続いています。	・宿泊、宴会減少 ・厳しい業況	三井ガーデンホテル柏	ホテル

◎購買意欲低下

- ・ 公共工事が少なく、みんなの購買意欲も薄れているように思います。
- ・ 前月と同様あるいはさらに悪化した基調です。初商クリアランスは昨年を2桁割り込んでいます。媒体やパブリシティ初動も続きません。金融証券市場の低迷、企業業績の悪化が個人消費に大きな影響を与えており、きわめて慎重な購買態度です。
- ・ 不況の波から顧客の購買意欲が減っており、買い控えが感じられる。原油価格同様LPG輸入価格も下落したことから、経営的には多少落ち着いた感がある。
- ・ 1月は毎年盛況である初売りは周辺競合の激化に加え、景況感の悪化に伴い、個人消費が冷え込んだ影響から、売上・入店客数ともに厳しい結果と

◎景気低迷

- ・ 国民全体に景気低迷がインプットされてしまった。お客はお金を使わないよりも、使えない状態に陥っているため、仕事量が減って回復できない。
- ・ 当社としても世間の景気悪化の影響が出ている。関係業者からも景気悪化の底が見えない状況で進んでいるとの声がある。

◎先行き不安

- ・ 来店客数が若干減ってはいるが、それ以上に売り上げがよくない。先行き不安からか買い控えムードが強く、冬物バーゲンも前年数字をとれていない。1月も後半に入り、景況はさらに悪くなっている。
- ・ 経済不振に伴う先行き不安増長が大きな問題


## 平成21年1月のCCI LOBOとの比較


- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲65.3に対し、「CCI-LOBO」が▲71.3で、柏の方がマイナス幅が6.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲56.4に対し、「CCI-LOBO」が▲64.7で、柏の方がマイナス幅が8.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・サービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲56.4に対し、「CCI-LOBO」が▲65.1で、柏の方がマイナス幅が8.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、サービス業・卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.0に対し、「CCI-LOBO」が▲31.1で、柏の方がマイナス幅が8.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.1に対し、「CCI-LOBO」が▲18.1で、柏の方がマイナス幅が4.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.0に対し、「CCI-LOBO」が▲45.8で、柏の方がマイナス幅が13.8ポイント小さい。すべての業種において「柏の景気」の方が10ポイント以上良い。











# 平成21年1月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 65.3	 80.0	 66.6	 56.6	 66.6
CCI LOBO	 71.3	 73.2	 72.5	 70.6	 69.6


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 56.4	 66.6	 72.2	 36.6	 66.6
CCI LOBO	 64.7	 69.4	 65.4	 63.8	 64.0


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 56.4	 80.0	 55.5	 43.3	 60.0
CCI LOBO	 65.1	 68.5	 67.8	 62.3	 65.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 23.0	 33.3	 44.4	 6.6	 46.6
CCI LOBO	 31.1	 35.0	 29.3	 30.4	 35.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 14.1	 ±0.0	 50.0	 16.6	 20.0
CCI LOBO	 18.1	 39.6	 27.5	 5.4	 9.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 32.0	 40.0	 38.8	 23.3	 33.3
CCI LOBO	 45.8	 51.6	 52.6	 38.6	 44.3

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# 柏の景気情報

(1月の調査結果のポイント)

調査期間：平成21年1月19日～23日

調査対象：柏市内109事業所及び組合に  
ヒアリング、回答数 78

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲55.0	▲68.7	▲38.8	▲55.1	▲58.8
9月	▲55.1	▲75.0	▲52.9	▲48.2	▲50.0
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
見通し	▲58.9	▲60.0	▲83.3	▲40.0	▲66.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

## 柏市の業況

業況DIは依然として60ポイント台 消費者の購買意欲は低迷

1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース以下同)は65.3(前月水準63.6)となり、マイナス幅が1.7ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業 56.6(同 62.5)、サービス業 66.6(同 70.5)、製造業 66.6(同 68.7)である。

マイナス幅が拡大した業種は建設業 80.0(同 50.0)であり、マイナス幅が30.0ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】では、「企業の設備投資減少により、工事が少なくなっている」「(一般土木建築工事業)田高は歓迎する」「土木事業」昨年12月の売上は確保できなかったが、仕入単価の上昇、外注費及び休務日出勤手当、残業代など経費が売上以上に上がり、採算が合わない状態になっている。人材に効率よく仕事をしてもらうことがこれからの課題(管工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「販売額の低下により収益が低下(有機化学工業製品製造業)」「海外向け製品の出荷延期(中止)が増加している」「(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)」「大手メーカーからの受注減により減少(その他の鉄鋼業)」「従来、毎月受注していたリピーター品の注文が少なくない。メーカーが生産を調整している。受注量が多い時期に生産体制を合わせているため、固定費がそのまま注文がないという状況。正社員で構成しているため、調整ができない。試作品の受注が多く業務的には繁忙期のように(その他の金属製品製造業)等のコメントが寄せられている。

【卸小売業】では、「全体的に変動ですが悪い位置でのこと。商品

の値上げは止まった(食料・飲料卸売業)」「現在の青果卸の状況は、野菜は産地の厳しい寒さから、キャベツが品薄のため高値が続く、果実では、みかんが入荷減(裏年)のため単価高のもの等、各々にばらつきがあり動いている(食料・飲料卸売業)」「逆に円高による輸入原材料の値上げに期待するがなかなか下がらず(菓子・パン小売業)」「原油価格の下落に伴い、ガソリン価格は以前の値段に戻っているのに、塗料・シンナー等の仕入れ価格は高いビツクの水準のまま据え置かれていて苦しい(塗料卸売業)といったコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「経営コストの中で軽油価格の低下が経常利益に大きく寄与した。再度値上げの観測があるがこのままの価格維持がなんとしても必要(一般貨物自動車運送業)」「世界不況の中、日本独自の景気回復が望めない中、アメリカ大統領の正式就任により、景気の早期回復に望みをつなぎたい(食堂・レストラン)」「宿泊は稼働率減、単価増宴会は件数減、単価減、非常に厳しい現状が続いています(ホテル)などのコメントが寄せられた。

## 1月の景気キーワード

### 購買意欲低下

各業種から「公共工事が少なくな、みんなの購買意欲も薄れてい

るように思います(一般土木建築工事業)」「前月と同様あるいはさらに悪化した基調です。初商クリアランスは昨年を2桁割り込んでいます。媒体やパブリシティ初動も続きません。金融証券市場の低迷、企業業績の悪化が個人消費に大きな影響を与えており、きわめて慎重な購買態度です(百貨店)」「不況の波から顧客の購買意欲が減っており、買い控えが感じられる。原油価格同様LPG輸入価格も下落したことから、経営的には多少落ち着いた感がある(燃料小売業)」「1月は毎年盛況である初売りは周辺競合の激化に加え、景況感の悪化に伴い、個人消費が冷えたんだ影響から、売上・入店客数ともに厳しい結果となった(各種商品小売業)などの声が多くあがってきている。

### 景気低迷

各業種から「国民全体に景気低迷がインプットされてしまった。お客はお金を使わないよりも、使えない状態に陥っているため、仕事量が減って回復できない(電気工事業)」「当社としても世間の景気悪化の影響が出ている。関係業者からも景気悪化の底が見えない状況で進んでいるとの声がある(その他の機械・同部品製造業)といった声が多く寄せられた。

## CCI LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が65.3に対し、「CCI LOBO」が71.3で、柏の方がマイナス幅が6.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、卸小売業は1.0ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業。

減ってはいるがそれ以上に売り上げがよくない。先行き不安からか買い控えムードが強く、冬バレーゲンも前年数字をとれていない。1月も後半に入り景況はさらに悪くなっている(その他の各種商品小売業)」「経済不振に伴う先行き不安増長が大きな問題(書籍・文房具小売業)などに對するコメントが寄せられた。

### 先行き不安

各業種から「来店客数が若干



# CCI - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(1月速報)

調査期間：平成21年1月19日～23日

調査対象：全国の404商工会議所が2577業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況 業況DIは、最悪値を2カ月連続で更新

1月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(70.2)より大きく下がり、71.3となり、89年4月の調査開始後の最悪値を記録した。

産業別の業況DIは、建設・製造ではほぼ横ばいとなったものの、他の3業種では拡大した。卸売・サービスは、調査開始後の最悪値を記録

景気に関する声、当面する問題としては、原油や一部原材料価格の下落により、採算の改善を期待といった声があるものの、受注の大幅な減少や売上の低迷により、収益面では厳しい状況。また、米金融危機の影響による先行きへの不安や、金融機関の貸出姿勢の厳格化などを訴える声も非常に多い。このため、雇用面では過剰感が前月から強まっており、今後は倒産・廃業の増加を懸念する声が多くなる。各業種から寄せられている。

【建設業】「仕事を受注しても低価格で採算性の低いものが多く、倒産や廃業も発生」(一般事業)、「住宅関連の受注が大幅に減少し、先行きも全く

見通せない状況」(建築事業)、「景気の悪化に伴い、顧客の事業計画が延期となるなど、仕事の確保が困難」(建築事業)

【卸売業】「納品先である鉄鋼メーカーの減産に伴い、受注が減少。一時休業する事業所も発生」(耐火物製造業)、「仕入価格は下落しているが、売上も減少しているため、収益は悪化」(金属製品製造業)、「自動車部品を中心とした大幅な受注の減少は、今後も回復の兆しはなく、従業員の解雇や事業所の休業も検討されている状況」(自動車・附属品製造業)

【卸売業】「売上が大幅に減少しており、従業員数の縮小も検討しなければならぬ状況」(農畜産水産物卸売業)、「景気の先行き不安に伴う消費意欲の低迷により、果物の売上や飲食店からの受注が減少し、収益が悪化」(農畜産水産物卸売業)、「住宅着工件数の減少と急激な円高に伴う安価な輸入木材の流入により、今後の業況は悪化する見込み」(建築材料卸売業)

【小売業】「年始の初売りは来客数・売上ともに昨年を下回り、福袋の販売も不振と厳しい結果」(百貨店)、「昨年11月以降、全ての商品の売上の落ち込みが続いている」(百貨店)

「消費者の節約志向に伴うディスカウント店との競合で、収益が減少」(商店街)

【サービス業】「製造業を中心に、受注の減少や見送りが発生」(ソフトウェア)、「以前に比べ新年会の開催が減少するなど、消費の冷え込みが顕著」(食堂・レストラン)、「来客数の大幅な減少に伴う売上の悪化や価格競争の影響により、廃業する店舗が増加」(理容業)

### 一月のキーワード

#### 受注の大幅な減少

各業種から、米金融危機の影響に伴う受注の大幅な減少や売上の悪化など、厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。建設業からは、「景気の悪化に伴い、住宅・設備投資などの建設計画が減少または凍結しており、民間からの受注件数はこれまでにならぬほど悪化」(静岡・一般事業)、「製造業からは、自動車関連の受注はほとんどなく、工作関連も60～80%以上の減少と非常に厳しい状況」(館山・金属加工機械製造業)、「1月に入り、受注量が90%以上減少、来月以降は受注がなくなる事業所も発生するなど、今後の見通しがつかない」(名古屋・非鉄金属材料製造業)、「住宅着工数の減少に伴い、木製家具の売上が減少。加えて原材料の高騰や安価な

輸入家具の流入等により、厳しい状況」(静岡・家具製造業)、「サービス業からは、円高の影響による輸出の不振やメーカーの減産に伴い受注が減少し、売上が悪化」(横浜・運送業)などの声が多く寄せられている。

#### 消費マインドの冷え込み

米金融危機の影響に伴う景気の悪化や雇用等への不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上の悪化などの悪影響を挙げ、声も寄せられている。小売業からは、「雇用不安が増大する中、個人消費の低迷に拍車がかかり、食品や家庭用品は堅調だが、衣料品の売上は減少」(山形・百貨店)、「消費者の価格への意識がより厳しさを増し、値下げの早期化拡大を行っている」(福山・百貨店)、「先行き不安に伴う消費の低迷から、正月の売上は不振。来街者の減少に加え、購入単価・点数も減少」(銚子・商店街)、「サービス業からは、個人・企業とも節約意識が強くなり、先行きも不透明」(柏崎・すし店)、「雪祭り期間の宿泊の予約が減少、採算面への悪影響を懸念」(札幌・旅館)といった声がある。

#### 先行き不安感の拡大

こうした売上の低迷に伴う業況の悪化などから、先行きへの不安を訴える声も寄せられている。製造業からは、「仕事

が全くなく、今後、存続できるのか不安」(さいたま・ブリキ缶等製造業)、「小売業からは、業況が厳しかった昨年と比べても売上が減少、先行き不安から消費の低迷は当分続く見込み」(銚子・その他の小売業)、「来客数・売上がさらに減少し、来月も一店舗の閉店が予定されている」(千葉・商店街)、「サービス業からは、昨年末だけでなく、年明け以降も売上が低迷、今後はさらに悪化する見込み」(水戸・食堂・レストラン)、「昨年末に同業者が閉店、今後さらなる増加を懸念」(鎌倉・洗濯)との声もある。

### 全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲58.8	▲71.4	▲55.4	▲64.7	▲58.9	▲51.4
9月	▲61.2	▲70.8	▲59.8	▲59.7	▲59.2	▲59.7
10月	▲64.6	▲71.1	▲59.8	▲63.8	▲64.4	▲65.9
11月	▲66.7	▲70.0	▲68.3	▲67.6	▲64.8	▲64.6
12月	▲70.2	▲74.2	▲72.7	▲67.6	▲69.2	▲67.3
1月	▲71.3	▲73.2	▲72.5	▲71.6	▲70.6	▲69.6
見通し	▲68.6	▲70.4	▲72.7	▲69.6	▲66.7	▲64.6

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI